

2. 調査結果の概要

(1) 回答者の基本属性

性別：女性が 53.5%と多かった。

年齢層：60 歳代が 22.2%で最多、次いで 70 歳代が 22.0%、50 歳代が 18.6%、40 歳代が 17.9%。中高年層が全体の 80.7%を占める。

職業：会社員が 37.4%で最多。次いでパート・アルバイトが 15.6%、主婦・主夫が 13.6%。

居住期間：20 年以上が 74.1%と最多。次いで 10 年以上 20 年未満が 10.2%。

小学校区：小坂が 3.3%、中央が 3.0%、南小立野が 3.0%、大徳が 3.0%と多い。

(2) 生涯学習の状況について

「生涯学習」という言葉の認知度

- ・「生涯学習」の認知度は高く、80.8%の市民が「聞いたことがある」と答えている。
- ・2014 年（平成 26 年）から認知度が 6.1%下がっている。

生涯学習のために使える時間

- ・生涯学習に使える一月あたりの日数は「14 日以上」が 24.7%で最多、次いで「4～6 日」が 22.7%、「1～3 日」が 16.5%と続く。
- ・一日あたりの時間は「1～3 時間」が 49.9%で最多、次いで「3～5 時間」が 18.2%となっている。

ここ約 1 年の生涯学習活動

- ・回答者の 72.8%がこの 1 年の間に学習活動を行っている。
- ・学習内容については、「音楽、手芸、茶道などの趣味的なもの」が 41.3%で最多、次いで「スポーツやレクリエーション」が 32.3%である。そのほか、「職業上必要な知識や技能」が 23.4%、「健康の維持や管理に関するもの」が 20.5%となっている。
- ・2014 年（平成 26 年）から生涯学習の活動経験が 7.3%増えている。

生涯学習のきっかけ

- ・学習活動を始めたきっかけや動機は「趣味を豊かにするため」(57.1%) が最多、次いで「教養・能力・知識を高めるため」(40.6%) となっている。
- ・「教養・能力・知識を高めるため」は 2014 年（平成 26 年）から 14.6%減少し、新たな選択肢である「日常生活に必要な知識を得るため」が 33.8%と多くなっている。

学習方法について

- ・学習方法では「一人で本やテレビ、パソコン、スマートフォンを利用して学習した」(68.9%)が最多、その他の方法は2割を下回る結果となったが、「地域の学習グループに参加した」(16.9%)、「民間のカルチャーセンターやスポーツクラブの講座に参加した」(14.5%)、「公的機関の講座に参加した」(13.8%)など、地域や公共の場を利用した学習活動も一定の支持を得ていることが示された。
- ・年代別では年齢が若くなるほどスマートフォン等の利用による学習が多くなるが、70歳代以上においても63.5%の回答者がデジタルデバイスを利用して学習している。このことから、デジタル技術の普及が広い世代にわたって進んでおり、シニア層においても積極的に新しい技術を取り入れて学習活動を行っていることが伺える。

学習や講座を選ぶ決め手

- ・学習や講座を選ぶ際のポイントでは、「学習のテーマや内容」(55.8%)が最多、次いで「開催されている時間帯」(48.5%)、「参加費用」(46.9%)、「アクセス」(41.1%)が続いている。
- ・2014年(平成26年)に多かった「時間帯」(57.2%)、「費用」(54.5%)より、2024年(令和6年)は「学習のテーマ内容」が最も重視されている。

学習成果の生かし方

- ・生涯学習を行っている人の96.8%が学習成果を生活や仕事に生かしており、これは生涯学習が個人の成長や社会参加に重要な役割を果たしていることを示している。
- ・また、「自分の人生を豊かにしている」(63.4%)、「家庭・日常の生活に生かしている」(45.4%)、「健康の維持・増進に役立っている」(43.4%)といった回答が多く、生涯学習が個人の幸福や生活の質の向上に寄与していることが示されている。

学習活動をしていない理由

- ・学習活動を行わない理由は「仕事や家事が忙しくて時間がない」(51.3%)が最多、次いで、「学習を始めるきっかけがつかめない」(26.7%)、「費用がかかる」(22.1%)が多い。
- ・20歳代以下では、「学習を始めるきっかけがつかめない」(45.5%)が最多である。
- ・2014年(平成26年)より「めんどろである」の割合が4.7%増加しており、現代のライフスタイルや価値観の変化が学習活動への参加意欲に影響を与えていることが示されている。

(3) 金沢市の生涯学習の取り組みについて

地区公民館について

- ・ 39.2%の回答者が「公民館で催しものやイベント、活動などを行っているのは知っているが、参加したことはない」としている。
- ・ 公民館活動に参加したことがある回答者は約 3 割であり、積極的に参加している割合は 3.7%にとどまっている。
- ・ 70 歳代以上では約半数の割合が参加、年齢が下がるにつれて参加する割合は減っている。
- ・ 30 歳代以下では約 2 割が公民館の名前や場所などを知らない。
- ・ 2014 年（平成 26 年）は「公民館活動に参加したことがある」が最多だったが、2024 年（令和 6 年）では「知っているが参加したことがない」が最多に変わっている。参加経験は 2014 年（平成 26 年）の約 4 割から約 3 割に減少しており、公民館活動の魅力向上が求められる。

地区公民館の満足度

- ・ 満足度について、「満足」は 14.0%、「不満」は 8.3%で、満足が上回っている。「ふつう」と「わからない」が合わせて 77.3%を占める。
- ・ 満足度が高い項目は「情報」と「活動内容」であり、低いのは「利用時間」である。これにより、情報提供や活動内容は評価されているが、利用時間には改善の余地がある。
- ・ 全体として「ふつう」や「わからない」と回答した割合が高いことから、利用者が公民館活動に対する関心や理解が不足している可能性が示唆される。
- ・ これにより、公民館の活動内容やその価値をより広く周知するための啓発活動、利用者のニーズにより合った活動内容や利用時間の改善を図るなど、参加意欲を高める取り組みが求められる。

地区公民館への要望

- ・ 地区公民館に対する要望で多かったのは、「誰でも参加できる講座やイベントを増やす」（30.8%）や「学習やスポーツ、ボランティア活動の情報提供を増やす」（20.9%）である。
- ・ 一部の人が講座やイベントの充実を求めている一方で、「特に希望や要望はない」がどの年代においても最も多い。これにより、住民の多くが公民館の活動に満足しているか、特別な要望を持っていないことが示されている。

今後の学びに対するニーズ

- ・これから学習したい内容では、「健康やスポーツに関すること」(40.3%)が最多、次いで「仕事に必要な知識・技能や資格に関すること」(30.1%)、「趣味に関すること」(29.2%)である。
- ・学習の場所や形態については、「インターネット」(44.7%)が最多で、特に30歳代以下のニーズが高い。次いで「公民館や生涯学習センターの講座や教室」(37.5%)、「図書館、美術館、文化施設」(37.1%)が多く、オンライン学習の利便性と地域社会に根ざした学習機会の両方に高い関心が示されている。
- ・情報収集に対するニーズでは、「ホームページや講座の情報検索サイト」(54.4%)が最多、次いで「SNSや動画視聴サイト」(37.4%)、「町会の回覧や地域の掲示板」(33.9%)であり、インターネットやデジタルメディアを利用した情報収集が主流であるが、地域コミュニティを通じた情報収集も根強く存在している。

生涯学習の大切さ

- ・学びの大切さについて「そう思う」(65.0%)、「ある程度そう思う」(28.4%)を合わせ、93.4%の回答者が生涯にわたって新しい知識や技能を学ぶことの大切さを感じている。
- ・2014年(平成26年)より、「そう思う」と答えた割合が9.4%増加しており、現代社会で生涯学習の重要性がより認識されるようになっている。

(4) 地域や社会での活動に関する考え方について

ここ約1年の地域活動・ボランティア活動への参加について

- ・回答者の53.7%がこの1年の地域活動やボランティア活動への参加している。
- ・40歳代以上の約半数の割合が地域活動やボランティア活動に参加している。
- ・活動内容では「地区公民館や婦人会、町会に関する活動」(29.4%)が最多、「芸術・文化・スポーツに関する活動」(12.3%)、「防災・災害救助支援に関する活動」(10.1%)が続いている。

地域活動・ボランティア活動へ参加した理由

- ・参加理由は「地域や社会の役に立ちたい」(42.2%)が最多、次いで「幅広い世代や多様な人とつながりができるから」(31.6%)が続いている。
- ・また、「自らの成長につながる」(24.9%)、「普段とは違う経験ができる」(23.8%)、「職場や学校、所属団体の活動の一環として」(22.0%)も2割を超えている。

- ・これにより、地域活動やボランティアに参加する人々は、社会貢献だけでなく、自身の成長や新しい経験を求めていることが分かる。

地域活動・ボランティア活動へ参加していない理由

- ・参加しない理由は、「仕事や家事が忙しくて時間がない」(43.5%)が最多、次いで「気軽に参加できない」(22.3%)や「活動が行われる時間が合わない」(19.8%)も多い。
- ・忙しい生活スケジュールや参加しやすさに対する懸念が、地域活動やボランティア活動の参加障害になっている。

社会活動を活発化するために必要なこと

- ・地域活動の参加促進に求められることは、「活動に関する情報提供」(57.3%)最多で、次いで「地域や社会に関する講習会の開催などの活動への参加につながるようなきっかけ作り」(41.6%)が多い。
- ・このことから、地域住民に適切な情報提供と参加を促す具体的な機会の創出が重要であると考えられる。